

作業者接近検知装置 他社との特長比較

方式	セミアクティブ型ICタグ(当社)	アクティブ型ICタグ	超音波	対抗式赤外線	カメラ
概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 車両毎に固有のIDを付加した磁界を出力する ■ ICタグは磁界の外では休止ICタグが磁界に入ると電波を発信する ■ 車両の受信アンテナでICタグから発信された電波を受信すると、車両に取り付けた警報器が作動して、オペレーターに注意喚起する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ICタグは常時電波を発信 ■ 車両の受信アンテナでICタグが発信した電波を受信すると、車両本体に取り付けた警報器が作動する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 車両に設置した超音波センサーが人や障害物を検知して警報器が作動 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 車両に取り付けたフレキシブルセンサーから赤外線を出力 ■ 歩行作業者のヘルメットに取り付けた赤外線受光電波発信器が、赤外線を検知して振動と音で注意喚起する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 車両にカメラを装着 ■ カメラ映像に進入した作業者を検知して警報器が作動
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 限定した検知範囲を360度四方広範囲(物陰も検知)で生成する ■ 磁界のIDによって個々の車両を識別する ■ 検知が一定して確実 ■ マグネットで簡単に取付可能 	<ul style="list-style-type: none"> ■ シンプルな構成で比較的安価 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ICタグが不要 ■ 特定方向のみ検知する場合は比較的安価。(複数方向検知には追加が発生する) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 導入コストが比較的安価 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ICタグが不要
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ ICタグの携帯が必要(ヘルメット固定用アタッチメントあり)(オプションのトリガー検知センサを使用するとICタグは不要) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ICタグの携帯が必要 ■ ICタグの電池寿命が短い ■ ICタグの発信が反射して、接近していない車両まで届き、警報器が作動する事が有る ■ 検知範囲が一定しない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物や棚にも反応する。 ■ 雨風、砂埃、粉塵にも反応して警報が作動する場合がある ■ 取付に手間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 感知距離が短い ■ 赤外線受光電波発信器の電池寿命が短い 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遮蔽物内(物陰)では検知できない ■ しゃがむと作業者と認識できない ■ 導入コストが比較的高い